

Title	北陸先端科学技術大学院大学附属図書館： 24時間開館と地域開放
Author(s)	中本, 悦子
Citation	情報管理, 46(3): 183-184
Issue Date	2003-06
Type	Journal Article
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/3516">http://hdl.handle.net/10119/3516</a>
Rights	中本 悦子. “北陸先端科学技術大学院大学附属図書館： 24時間開館と地域開放”. 情報管理. Vol. 46, No. 3, (2003), 183-184. ここに掲載した著作物の利用に関する注意: 本著作物の著作権は独立行政法人科学技術振興機構に帰属します。本著作物は著作権者である独立行政法人科学技術振興機構の許可のもとに掲載するものです。
Description	

## 大学図書館案内

# 北陸先端科学技術大学院大学附属図書館 —24時間開館と地域開放—

北陸先端科学技術大学院大学研究協力部学術情報課 情報サービス係  
中本悦子

### はじめに

本学は、新構想の独立大学院大学として平成2年10月に我が国で最初に創設された国立の大学院大学で、石川県辰口町の丘陵地にある先端的研究開発拠点「いしかわサイエンスパーク」内にある。小松空港から本学経由のバスで約30分、金沢市街からは車で約40分行くと小高い丘の上にそびえ立つグレーブルーの建築物群に辿り着くが、そこが本学のキャンパスである。

本学は大学院大学のため学部はなく、知識科学研究科、情報科学研究科、材料科学研究科の3つの研究科にそれぞれ前期課程と後期課程を置いて大学院生を受け入れている。

附属図書館の建物は、キャンパスのほぼ中央に位置し、平成8年4月に開館した。紙媒体だけではなく電子媒体の学術情報も併せ持つ、いわゆるハイブリッド型図書館を目指しつつ、当初から「24時間開館」、「研究図書館」、「電子図書館」をキーワードにして運営してきた。

図書館の利用対象は、教職員385人、学生931人(平成14年5月1日現在)で、平成14年度の入館者数は、61,763人あった<sup>注1)</sup>。

また開館当初から、地域の人々にも開放している。ここでは、図書館の概要と地域開放について紹介したい。

### 図書館の概要

建物は、鉄筋コンクリートの3階建てで、延床面積は事務部門を含めて約2,200 m<sup>2</sup>ある。図書館の規模は小さいが、エントランスホールの廊下や壁面および吹き抜け部分の壁面はイタリア産の天然大理石が用いられているので、美術館のような雰囲気を持つ図書館である。

大学の24時間研究環境に合わせて図書館も24時間終日開館している。休館日はなく年中無休で開館している。集密書架導入時や蔵書点検時も臨時休館はせず、できるだけ利用者の研究の妨げにならないように、最小限の部分的な利用制限で対応してき



図書館内部

た。時間外や休日は無人開館となるが、平日の17時から20時までは学生のパート職員1名をカウンターに配置している。

セキュリティシステムとしては、自動入退館システム、ブックディテクションおよび監視カメラ(デジタル録画方式)を設置している。

夜間の照明は、館内は人感センサーによる自動照明により作動するが、2階と3階にある閲覧室およびAVメディア室は部屋ごとにスイッチがある。

空調は、平日の20時で止まるが、閲覧室およびAVメディア室は単独空調になっており、夜間や休日も利用できる。

1階にはブラウジングコーナーやカウンターがある。2階には主に専門図書と辞典類などの参考図書が、3階には主に雑誌やシラバスに掲載されている

注1) 教職員・学生のみ。ただし、入館ゲートがカウンター前にあるので、レファレンス等でカウンターに立ち寄るだけの利用者はカウントされない。

教科書・参考書等が配置されている。蔵書冊数は、約108,000冊(平成15年4月1日現在)でその内の約24%は研究室に配置されている。

館内には書庫は設けず、全面開架方式をとっており、閲覧、貸出・返却、複写などの基本的なサービスがいつでも24時間利用できるように提供されている。

貸出および返却手続きは、自動貸出装置によるセルフサービス、ブックポストへの返却制度により、24時間いつでもできる。なお、自動貸出装置は、平成14年3月に新機種に更新し、初心者でも使いやすくなったことで、トラブルが激減した。

文献複写は、学内者は公費用のコピーカードがあれば、24時間いつでも複写ができる(著作権の保護については利用者自身に留意してもらっている)。

情報検索用のパソコンは何台か置いてあるが、多くの大学図書館で見られるような何十台もパソコンを並べたようなコーナーはない。学生は研究室におおむね1人1台の個人用ワークステーションが提供されているため、蔵書検索やWeb対応のデータベース・電子ジャーナル等は、館内だけではなく研究室からも利用ができるようになってきている。

なお、個人用のノートパソコンも利用できるように、各階の閲覧机付近には情報コンセントを設置している。また、それ以外にも無線LANが整備されている。

### 学外者への開放

学外者には、利用目的に応じて図書館を24時間公開している。当日のみの利用者(当館では「当日利用者」という)が入館できる時間は平日の8時30分から20時までであるが、退館は自由である。また、希望により、所蔵資料による学術研究・調査または学習を目的とし、利用が頻繁かつ長期にわたる学外者(当館では「長期利用者」という)に対しては「図書館利用証」を発行している。この磁気カードで学内者と同様に24時間いつでも利用ができる。これまでは、単に建物の中に入るため(20時以降、土曜・日曜・祝日)とゲートを通過するためのカードでしかなかったが、平成13年11月から貸出サービスも開始し、貸出もできるカードになった。

貸出できる資料は、一般書、専門書、白書等であり、雑誌やシラバスに掲載されている教科書・参考書等は館内利用のみである。貸出冊数は、学内者は無制限であるのに対し、学外者は5冊までであるが、貸出期間は学内者と同じ2週間である。貸出および返却手続きは学内者と同様に24時間いつでもできる。

貸出以外のサービスとしては、閲覧と情報検索および文献複写で、当日利用者・長期利用者ともに共

通するサービスであるが、文献複写だけは、平日(9時から16時までの受付)のみのサービスに限定している。

### 学外者の利用状況

長期利用申請者数は、平成8年度から平成13年度までは、おおよそ80~90人であったが、貸出サービスを開始したところから、停滞気味だった申請者数が徐々に増え始め、平成14年度は、117人あった。平成13年度(ただし、平成13年11月~平成14年3月)の貸出冊数は、177冊で、月平均35.4冊だったが、平成14年度は632冊で、月平均52.7冊であった。なお、長期利用者の平成14年度入館者数は、2,653人で、その内休日利用は505人であった。

当館の図書館機能の位置付けが「学習図書館」ではなく、専門的かつ先端的な資料を重点的に収集し提供することを目的とした「研究図書館」であり、しかも限られた専門書しかなく、閲覧席も141席(平成15年4月1日現在)しかないこと、そして立地条件もよくないことから、公共図書館並みの利用はとて期待できない。しかし、当館の所蔵資料を利用したい利用者にとっては、24時間いつでも利用できる大学図書館の存在意義は大きいように思われる。

### 今後の課題

いよいよ全国の国立大学は、平成16年4月から「国立大学法人」となる。法人化により、これまで以上のサービスが求められるだろう。地域と連携し、さらに開かれた大学図書館を目指していくには、もっと一般市民の声に耳を傾けていく必要がある。

学外者から寄せられた要望の1つに次のような声がある。

「他大学が所蔵する資料の文献複写を取り寄せることはできないか」

学外者への文献複写サービスは、当館が所蔵する資料に制限しているため、他機関が所蔵する資料の文献複写を取り寄せるサービス(ILLサービス)は行っていない。学外者でも大学の教員や学生である場合には、自分が所属する大学のILLサービスを利用して他大学等の文献複写を入手することができるが、そのようなILLサービスを受けられない一般市民の場合には、所蔵機関ごとに訪問するか、または電話等で確認した上、手紙等で文献複写を申し込まなければならない状況にある。

この要望は、確かに“あったら便利なサービス”であるが、当日利用者を含めた学外者のILLサービスは問題点があり実現は難しいものがある。せめて、本学の長期利用者を対象にしたILLサービスが実施できないか検討してみたい。